

論文内容の要旨

Dietary habits in Japanese patients with chronic spontaneous urticaria

日本人慢性特発性蕁麻疹患者の食習慣

日本医科大学大学院医学研究科 皮膚粘膜病態学分野

研究生 亦野蓉子

Australasian Journal of Dermatology 第 61 卷 第 3 号(2020)掲載

【背景】

慢性特発性蕁麻疹 (chronic spontaneous urticaria, CSU) は特定の誘因なく 6 週間以上続く膨疹である。CSU の病因は不明であるが、自己免疫、炎症、凝固、自己アレルギーとの関連が示唆される。食習慣は CSU の病態を修飾する。本研究では成人日本人 CSU 患者の食習慣を健常者と比較し、疾患重症度と各食品・栄養素摂取量との相関を検討した。

【方法】

1. 対象

日本医科大学千葉北総病院、付属病院皮膚科外来通院中の日本人成人 CSU 患者 70 人 (男性 29 人、女性 41 人) を対象とした。CSU の重症度は urticaria control test (UCT) で評価した。対照は患者と年齢・性別を一致させた 70 人の健常者とした。

2. 食習慣の評価

患者と対照の食習慣は brief-type self-administered diet history questionnaire (BDHQ) で調査した。回答結果から摂取エネルギー、各食品・栄養素摂取量を算出した。

3. 統計解析

CSU 患者と対照の各栄養素・食品摂取量の差はウィルコクソン符号順位検定で評価した。CSU 患者を uncontrolled 群 (UCT \leq 11, n = 35) と controlled 群 (UCT \geq 12, n = 35) に分類し、2 群間の差をマン・ホイットニー U 検定で評価した。UCT と各項目との相関はスピアマンの相関係数で評価した。P < 0.05 を統計学的に有意とした。各項目と CSU 発症あるいは uncontrolled CSU との相関は、多重ロジスティック回帰分析で解析し、年齢、性別、body mass index (BMI) で補正した。統計解析は統計ソフト EZR で行った。

【結果】

1. CSU 患者と対照の食習慣の比較

CSU 患者の BMI は対照より高かった。対照と比べ、CSU 患者のコレステロール、葉酸、食物繊維、ビタミン D、ビタミン K、Cu、Fe、Pi、Ca、Mg、Na、食塩、卵、緑黄色以外の野菜/キノコ/海藻類の摂取量は高く、アルコール摂取量は低かった。ロジスティック回帰分析の結果、BMI (odds ratio [OR] 1.32; 95% confidence interval, [CI] 1.15–1.51; P = 0.00007) と卵摂取量 (OR 1.05; 95% CI 1.02–1.09; P = 0.0013) は CSU のリスク因子と判定した。

2. UCT との相関

CSU 患者の UCT は 11.0 \pm 4.2 (mean \pm standard deviation) であり、男女間で差はなかった。各栄養素・食品摂取量と UCT との有意な相関はなかった。

3. Uncontrolled CSU と controlled CSU の比較

Uncontrolled CSU 患者の嗜好飲料及びコーヒーの摂取量は controlled CSU 患者より高く、ロジスティック回帰分析で嗜好飲料摂取量は uncontrolled CSU に相関した (OR 1.01; 95% CI 1.00–1.02; P = 0.0258)。

【考察】

BMI、卵摂取量は CSU 発症のリスク因子である。肥満患者の脂肪組織では TNF- α , IL-6, レプチン等炎症性アディポカイン産生が増え、抗炎症性アディポカイン、アディポネクチン産生が減る。炎症性アディポカインは肥満細胞のヒスタミン・ロイコトリエン放出などを誘導するため、BMI が上がると軽度の慢性炎症状態を生じ、蕁麻疹が誘導される可能性がある。コレステロールを多く含む卵の摂取量増加は脂質異常症、凝固、炎症、LDL コレステロールの血管壁沈着による酸化 LDL 産生、酸化 LDL による肥満細胞のヒスタミン放出を誘導する可能性がある。

Uncontrolled CSU 患者では controlled CSU 患者より嗜好飲料、コーヒー摂取量が高い。コーヒーに含まれるサリチル酸、安息香酸などの仮性アレルゲンが肥満細胞のヒスタミン・ロイコトリエンの遊離を促す、またはコーヒーに含まれるヒスタミン、セロトニンが血管内皮細胞に作用して血管透過性を亢進させる可能性がある。

【結論】

BMI、卵摂取量は CSU のリスク因子である。嗜好飲料摂取量は uncontrolled CSU のリスク因子である。今後は BMI、卵、嗜好飲料の摂取量を適正化することにより、CSU の発症・重症化を防止できるかを検討したい。